

在庫の増加 = 利益の増加？

■在庫が利益をきめる

中小企業の業況は、平成20年秋のリーマン・ショック後の景気後退から、一時的に持直しの動きが見られたが、22年夏以降落ち込み、その後、震災の影響を受け大きく悪化した。20年度と22年度の売上高、在庫、粗利益と在庫回転期間（日）の推移を主な中小企業で比較してみると、図1のとおりとなった。

業況の悪化により売上高が減少し、それに応じて、在庫も減少していることがわかる。各々の在庫回転期間は、短くなっていることから、在庫の過大化やリードタイムの長期化による損失を防ぐため、企業努力により在庫削減に取り組んだ成果がうかがえる。

主な中小企業の売上高・在庫・粗利益(売上総利益)との関係(図1)

(単位:百万円)

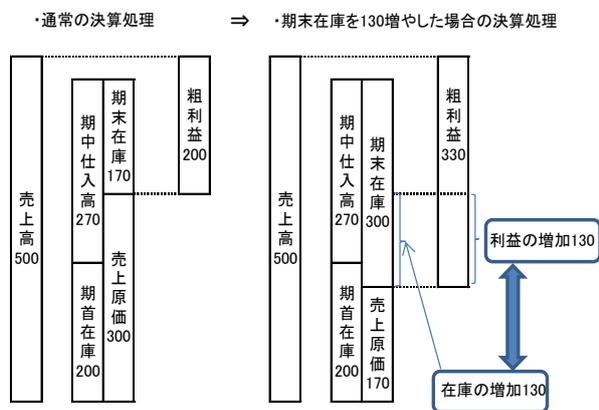
	繊維工業		道路貨物運送業		金属製品製造業		設備工事業	
	20年度	22年度	20年度	22年度	20年度	22年度	20年度	22年度
売上高	221	215	450	382	306	271	240	207
在庫	31	28	1.7	1.4	35	28	15	12
粗利益	50	44	111	91	64	53	48	46
在庫回転期間(日)	50.9	47.2	1.4	1.3	42.1	38.0	23.1	22.0

(中小企業庁ホームページより一部加筆。売上高、在庫、粗利益は1社当たり平均、単位未満は四捨五入)

■在庫の増加は利益の増加

一方、売上高は同じでも、期末在庫の決算処理を変えることにより、粗利益も同様に変えることが可能となるケースを考える。

期末在庫の増加は利益の増加(イメージ図)(図2)



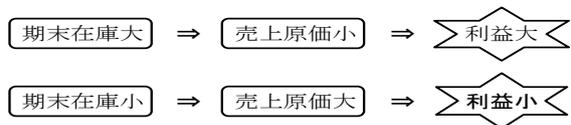
回覧

図2のとおり、在庫が増加すれば利益も増える。在庫が多ければ売上原価が小さくなるからである。逆に在庫が少なければ、売上原価は大きくなり、利益が小さくなる。

在庫、売上原価、利益の関係はつぎのとおり。

粗利益=売上高-売上原価

売上原価=期首在庫+期中仕入高-期末在庫



では、在庫が増えれば儲かっているのだろうか？

■在庫と営業キャッシュフローの関係

(勘定あって銭足らず=黒字倒産)

利益の他に、在庫の影響を受けるのが営業キャッシュフローだ。最近では、利益以上に重要な指標として取扱われる。なぜ、この指標が注目されるのか。

営業キャッシュフローは、会社が営業段階で稼ぐ営業キャッシュフローで、言わば会社が自由に使えるお金のことである。利益が出ていると営業キャッシュフローもプラスと思いがちだが、在庫の増加により利益が出ているだけでは、ほとんどの場合、営業キャッシュフローはマイナスになる。

この営業キャッシュフローのマイナスには、特に注意が必要である。在庫が増えただけでは、自由に使えるお金が増えないので、その時点ではまだ儲かっていない。

一見、利益が計上されていても、手元に自由に使えるお金が全くなないと、最悪の場合「黒字倒産(勘定あって銭足らず)」という事態が発生する可能性もある。取引先の決算書を入手できるなら、売上高、利益の増減に注目するだけでなく、在庫の増減にも注意する必要がある。(橋本公秀)